

宝積山 光前寺



◆境内ご案内図

- 御祈祷 / 本尊不動明王の御宝前にて、御参拝の皆様的心愿成就、家内安全、交通安全、厄除開運、家業繁栄等の御祈祷を行っています。
 - 追善供養 / 大講堂阿弥陀如来の御前にて、先亡精霊の追善供養を行っています。
 - 宝物拝観 / 本坊奥庭園の参観、当寺案内等ご希望の方は、灯明料として所定の御奉納をお願い申し上げます。本尊御供物「法楽」にて湯茶の接待をいたします。
- なお、御供物「法楽」は御参拝の方に限りお頒けもいたしております。ご希望の方は、本坊受付までお申し出ください。

〈交通のご案内〉

中央自動車道駒ヶ根I.Cより、西方1.2km
JR飯田線・駒ヶ根駅下車、西方4km

光前寺 〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂29番地
TEL.0265-83-2736 FAX.0265-83-4800

<http://www.kozenji.or.jp>

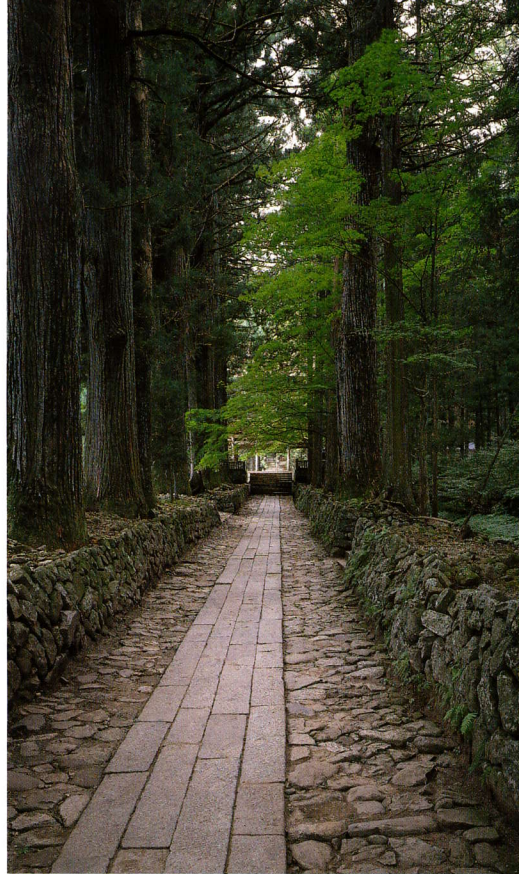


賽の河原

三重塔の南に三十余体の地藏尊をまつる賽の河原があります。賽の河原は幼な子を亡くした親たちが、その追善供養にと地藏尊をまつり、石を積むと伝えられています。

青獅子(秘宝)

雨乞いの青獅子ともいわれ、日照りが続き水不足の時、この青獅子を出せばたちどころに慈雨を降らすという、元和六年(一六二〇)熱田住森満家法眼、同小拾郎満泰公の作。



▲杉並木参道 / 石垣の間に「光ごげ」が見えます。

光前寺自然探勝園

光前寺境内の南側(約十ヘクタール)が、県の環境保全地区に指定され、自然を生かした遊歩道のところどころには、広場・あずまやを配し、自然を親しみながらの家族づれなどのハイキングに適しています。

宝物

数多くの仏画を所蔵しており、平安・鎌倉・室町時代や中国明時代とみられるものも多い。主な物に来迎弥陀画・両界曼陀羅・十王画・釈迦涅槃画・十六善神画・十二天画などがあります。

光ごげ

光前寺には昔より「光ごげ」が自生しています。参道の石垣の石の間、本坊客殿奥の庭園に面した外縁の床下などに、光線に反射して美しく、神秘的な光を放つています。(四月中旬〜十月上旬)



- 御本尊
不動明王(秘仏)
- 宗派
天台宗(比叡山延暦寺末)
- 開基
本聖上人
- 開基年代
清和天皇貞観二年(八六〇)

開祖本聖上人は、比叡山にて研学修業の後、太田切黒川の瀑の中より不動明王の尊像を授かり、この地に寺を開かれました。以来千百年の長い歲月の間には幾多の火災等により古記録を焼失しました。古くは武田・羽柴家等の武将の保護を受け、特に徳川家からは地方寺院としては破格の六十石の寺領と十万石の大名格を与えられるなど、隆盛をきわめました。

明治以後は、多くの末寺等も廃寺となりましたが、今なお樹齢数百年の杉の巨木に囲まれた境内には、十余棟の堂塔を備え、長野県下屈指の大寺であり、南信州随一の祈願霊場として広い信仰をあつめています。

名勝庭園

本堂の前庭と本坊客殿奥の庭園、仁王門から参道を経て三門、本堂へと続く直線上の伽藍配置、および、それをとりまく境内林など境内全域約6.7ヘクタールが、光前寺庭園として文化財保護法による国の名勝に指定され、静寂な環境と風致は、長野県下随々と称せられています。(昭和四十一年五月十日付指定。)

本堂前の庭園は、三門と本堂との間の池庭であり、その菴組みはいわゆる竜門瀑の様式を表わし、滝口付近の石組は特にみるべきものがある日本庭園史上貴重な石組とされています。

本坊客殿奥の庭園は、築山泉水庭であり、前面に池を掘りその奥は自然の傾斜地を築山にみなし巨石を建てて庭景の中心としています。池尻は客殿南に導き、多数の石を枯山水風に組んであります。一説には、この庭園は、阿弥陀仏の極楽浄土より来迎のお姿を表現しようとした、極楽浄土の庭園ともいわれています。

築造年代、作者等は、不明であり近世において改変された跡もありませんが、その地割石組等には中世のすぐれた意匠手法をみることができるとされています。

伽藍

本堂

本尊不動明王及び、八大童子をまつる祈願霊場。嘉永四年(一八五二)再建。

三門

三解脱門で迷より悟に入る門の意。楼上に十六羅漢を安置。県下では善光寺に次ぐ三門である。嘉永元年(一八四八)再建。

三重塔

(長野県県宝)
南信州唯一の三重塔で高さ約十七メートルの均整のとれた美と彫刻の美しさは高く評価されています。五智如来を安置。文化五年(一八〇八)再建。

弁天堂

(重要文化財)
当寺建物中最も古い建物で、方一間入母屋造りの建築であるが、内部厨子の宝形造りとともに、室町期の様式をうかがえる重要な古建築です。弁財天・十五童子は、明応九年(一五〇〇)七条大倉法眼の作。

経蔵

唐破風造りの向拝の建築美は近郷第一と称せられており、多くの経巻とともに霊犬早太郎報恩のため、奉納された大般若経六百巻も所蔵されています。享和二年(一八〇二)再建。

仁王門

寺院を守護する金剛力士像を安置しています。仁王像は大永八年(一五二八)七条門院雲慶十三代慶延法眼の作。

大講堂

(阿弥陀堂)
昭和五十五年本尊不動明王の御開帳記念事業として建立。昭和三十五年当山開基千百年記念に再建され、大梵鐘は、重量千三百四十キログラムの近郷第一の巨鐘です。

その他

本坊(庫裡)・客殿・別院・奏樂堂他。

弁財天

本坊客殿に安置されており、商売繁昌、智恵や学問、福財をさすける仏神として、広く信仰を集めています。

伊那七福神



●開花期間中、ライトアップされます。
しだれ桜



●弁天堂



●三重塔

霊犬早太郎 伝説



光前寺には昔より霊犬早太郎の伝説が伝えられています。今よりおよそ七百年程前、光前寺に早太郎という大変強い山犬が飼われていました。その頃遠州府中(静岡県磐田市)見付天神社では、毎年祭りの夜に一人の子女を神前に人身御供として供える悲しい習わしが続けられていました。これを救おうと社僧(実坊)存は、神仏に祈願して祭りの様子をきかり、子女をさう怪物が信州の早太郎を恐れていることを知りました。

信州に尋ね入った存は、光前寺に早太郎をさがし当て、早太郎を借り、子女の身代わりとなった早太郎の力によって怪物(老ヒヒ)は退治され、村の災難は除かれたのです。実坊存はこの報恩のため、大般若経を書写し天神社から光前寺に奉納されました。

以来、早太郎(三まき)に不動明王の化身であり、災難除、厄除の霊犬なりとして広く信仰をあつめ、今なお見付より報恩の参拝が続けられています。

天台宗 別格本山

一宝積山 光前寺

霊犬早太郎
伝説



光前寺には昔より霊犬早太郎の伝説が伝えられています。

今よりおよそ七百年前、光前寺に早太郎という大変強い山犬が飼われていました。その頃遠州府中(静岡県磐田市)見付神社では、毎年祭りの夜に一人の子女を神前に人身御供として供える悲しい習わしが続けられていました。これを救おうと社僧一実坊弁存は、神仏に祈願して祭りの様子をさぐり、子女をさらう怪物が信州の早太郎を恐れていることを知りました。

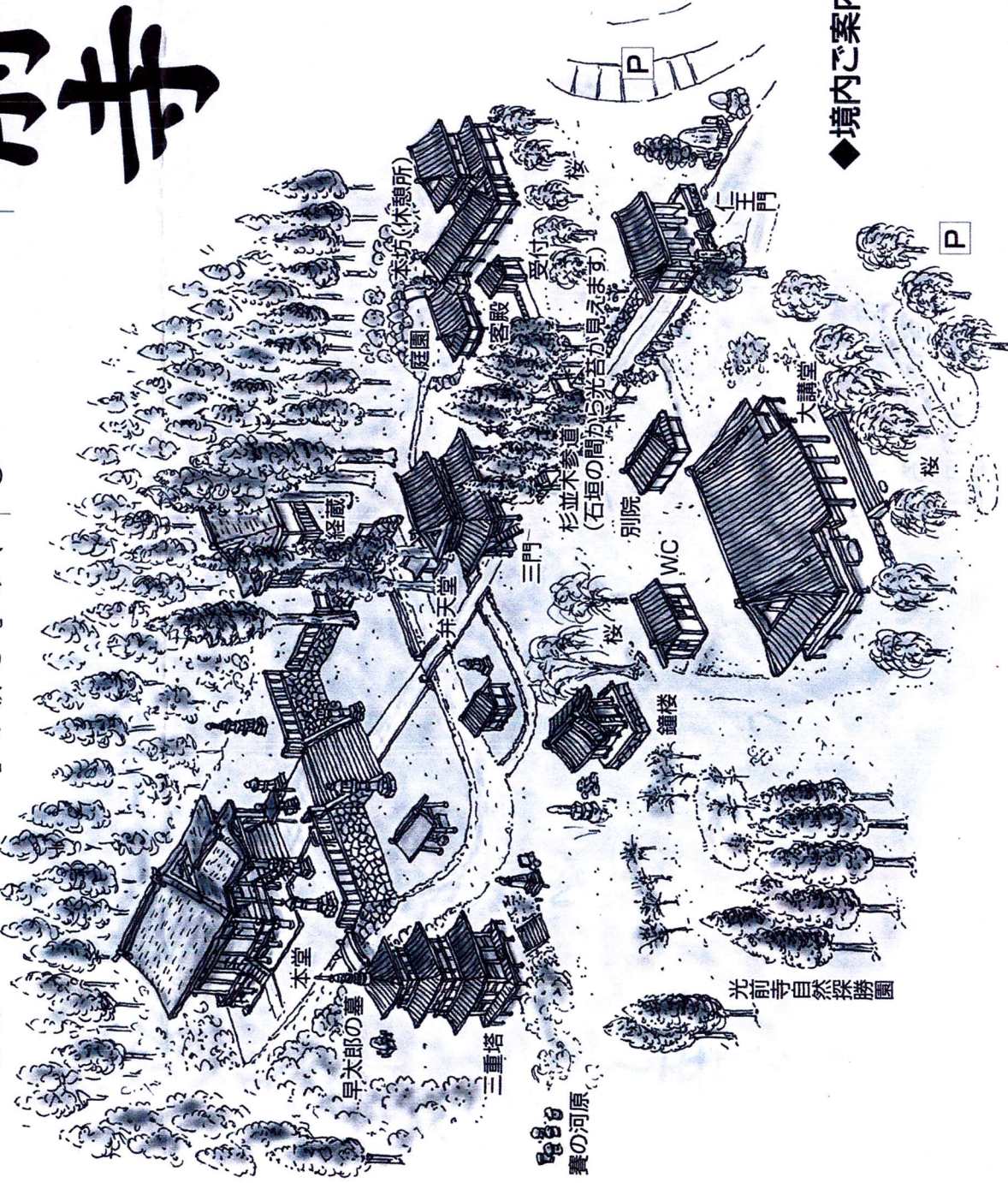
信州に尋ね入った弁存は、光前寺に早太郎をさがし当て、早太郎を借り、子女の身代わりとなった早太郎の力によって怪物(老ヒト)は退治され、村の災難は除かれたのです。一実坊弁存はこの報恩のために大般若經を書写し天神社から光前寺に奉納されました。

以来、早太郎こそまさに不動明王の化身であり、災難除、厄除の霊犬なりとして広く信仰をあつめ、今なお見付より報恩の参拝が続けられています。

- 御本尊
不動明王(秘仏)
- 宗派
天台宗(比叡山延暦寺末)
- 開基
本聖上人
- 開基年代
清和天皇貞観二年(八六〇)

開祖本聖上人は、比叡山にて研学修行の後、大田切黒川の瀑の中より不動明王の尊像を授かり、貞観二年(八六〇)この地に寺を開かれました。以来一〇〇余年の長い歲月の間には幾多の火災等により古記録を消失しました。明治以後は、多くの末寺等も廃寺となりましたが、今なお樹齢数百年の杉の巨木に囲まれた境内には、十余棟の堂塔を備えた長野県下屈指の大寺であり、南信州随一の祈願霊場として広く信仰を集めています。

また境内全域約67ヘクタールが、国の名勝に指定されています。



◆境内ご案内図

